

鳴子ダムの貯留量回復を考慮した防災操作（速報）

鳴子ダムでは、少雨と用水補給（かんがい）により貯水量が減少したため、渇水対応を図っていました。そうした中、8月5日に前線性降雨による出水が発生しました。

出水の前半では、渇水対策として利水のための貯水量回復に努め、今後のかんがい用水補給に万全を期しました。出水の後半では洪水調節を実施、沿川の浸水被害の防止に努めました。

■ 出水の概要（8月5～6日）

- ・総雨量：226.6mm（2日間合計）
- ・最大時間雨量：29.5mm（6日22時）
- ・ダムの最大流入量：651.7m³/秒（近年10カ年の最大、ダム建設以降の61年間で第5位）

■ 防災操作

○ 利水の効果（渇水被害への効果）

8月5日12時で利水のための貯水率が39%に低下していたが、6日AM0時で100%に回復。

○ 治水の効果（洪水被害への効果）

ダムへの最大流入量651.7m³/秒に対して放流量21.0m³/秒と、約630m³/秒をダムに貯め込んだ。これによりダムから約50km下流の「涌谷大橋」付近では約2.8mの水位低減を図ったものと考えられる。

■ 鳴子ダムの災害対策体制

○ 災害対策支部（渇水）

- ・注意体制：7月30日 9:00
- ・体制解除：8月6日 9:00

○ 災害対策支部（水害）

- ・注意体制：8月5日 22:30
- ・警戒体制：8月5日 23:15
- ・注意体制：8月6日 8:30（→継続）

■ 8月8日現在、ダムからの放流を継続しています。 下流河川の水位について十分に注意願います。

関連情報は鳴子ダムホームページ「リアルタイム情報」を参照してください。
<http://www.thr.mlit.go.jp/naruko/>

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 鳴子ダム管理所
管理所長 土田 恒年
専門官 及川 智博
TEL 0229-82-2341
FAX 0229-83-3855

なるこ 鳴子ダムの貯水量回復を考慮した防災操作

平成30年8月5日洪水
(前線による降雨)

【鳴子ダムは、渇水対策としての貯留量回復、江合川沿川の浸水被害防止に努めました】

鳴子ダムでは、少雨と用水補給(かんがい)により貯水量が減少したため、渇水対応を図っていました。そうした中、8月5日に前線性降雨による出水が発生しました。

出水の前半では、渇水対策として利水のための貯水量回復に努め、今後のかんがい用水補給に万全を期しました。出水の後半では洪水調節を実施、沿川の浸水被害の防止に努めました。

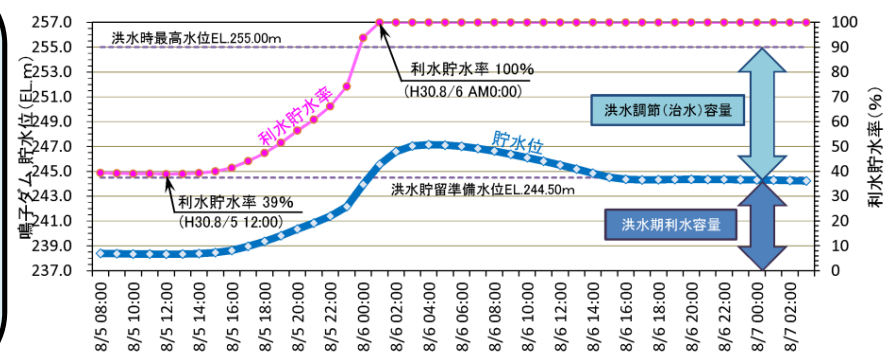
出水の概要(8月5日~6日)

- ・総雨量: 226.6mm(2日間合計)
- ・最大時間雨量: 29.5mm(6日22時)
- ・ダムの最大流入量: 651.7m³/秒
(近年10カ年の最大、ダム建設以降の61年間で第5位)

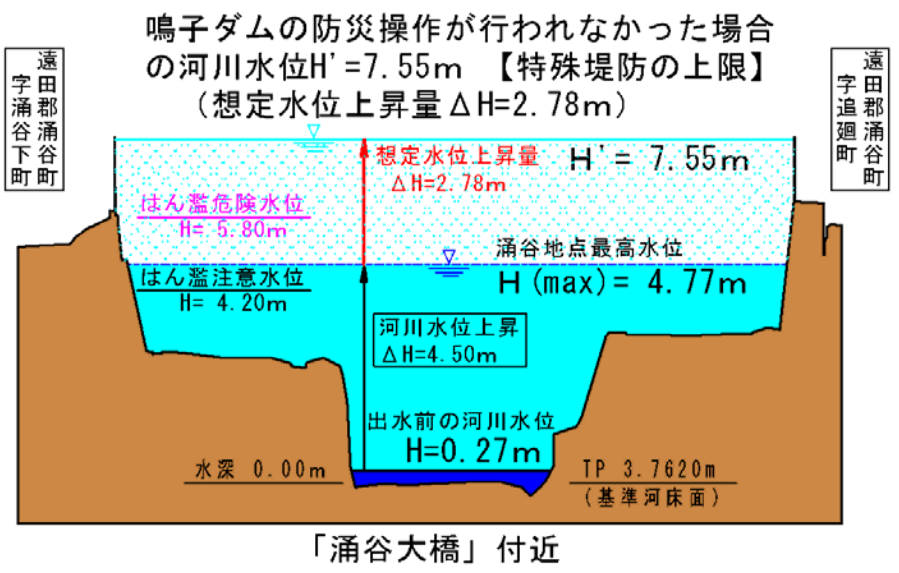
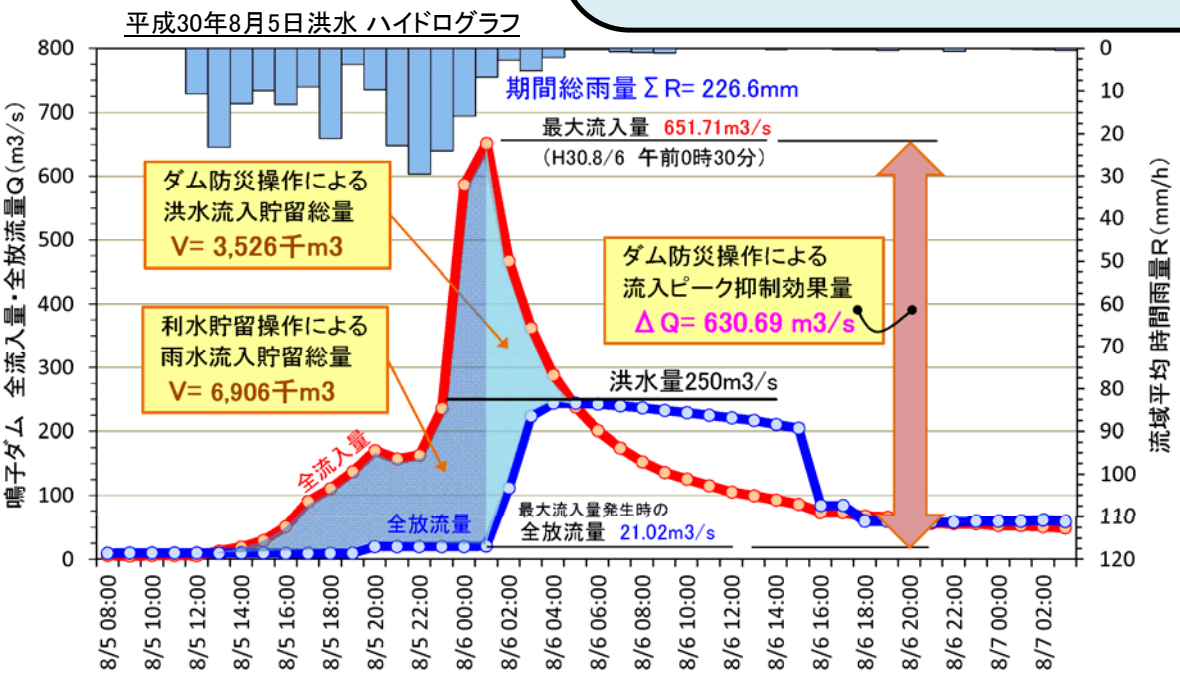
防災操作

- 利水の効果(渇水被害への効果)
8月5日12時で利水のための貯水率が39%に低下していましたが、6日AM0時で100%に回復。
- 治水の効果(洪水被害への効果)
ダムへの最大流入量651.7m³/秒に対して放流量21.0m³/秒と、約630m³/秒をダムに貯め込みました。これによりダムから約50km下流の「涌谷大橋」付近では約2.8mの水位低減を図りました。

(注意事項) 今回発表されている観測値は速報値です。



鳴子ダム貯水位及び利水貯水率推移図



「涌谷大橋」付近